

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都東山ホテル開発計画	階数	地上4F
建設地	京都市東山区馬町通妙法院通北門	構造	RC造
用途地域	第2種住居 第1種中高層	平均居住人員	300人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場, ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2013年8月15日
敷地面積	20,478 m ²	作成者	株式会社久米設計
建築面積	8,087 m ²	確認日	
延床面積	34,725 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.4

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	建物利用者の快適な環境を維持する為、遮音性や断熱性を高めると共に環境への配慮として、省エネルギー性を高めた建物とした。また周辺地域へ影響がないように外装にも配慮し、敷地内にはできる限りの緑化を計画した。	その他
Q1 室内環境	騒音の配慮として、開口部の遮音性を高めている。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	断熱性を高めて熱負荷の抑制に配慮している。	LR3 敷地外環境
Q2 サービス性能	情報通信社会に対応し、ブロードバンドを設けている。	
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上げ材を分別しやすいうに配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される